



埼玉医科大学医学部 同窓会会報

第72号

平成30年1月



巻 頭 言

会長 稲 葉 宗 通



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様に置かれましては健やかに新しい年を迎えられたこととお喜び申し上げます。昨年一年間皆様のご支援とご協力により同窓会活動も順調に進みましたこと心より御礼申し上げます。本年も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

昨年の同窓会行事の中では、総会の講演に4期生の馬瀬大助富山県医師会会長を呼ぶことができたことと、昨年教授職に就いた10期生の健康管理推進室・内分泌糖尿病内科井上郁夫教授を祝うことができたことが、通年の活動以外での大きなことでした。

さて、皆様にとって昨年一年はどんな年でしたでしょうか。振り返ってみますと、内外を問わず変化に富む重大な出来事が数多く起こり不安を募らせた年でした。とくに昨年は、国のリーダーの交代が世界に多大な影響を与えた年でもありました。そのリーダーの共通点は自国優先を掲げるあるいは権力を固持しようとしていることで、その結果が世界に多大な影響を与えました。その筆頭が大国アメリカの実業家ドナルド・トランプ氏の大統領就任でしょう。オバマ前大統領が進めてきた国際協調の流れを悉く覆し、世界に衝撃と世界の混乱を招きました。環太平洋経済連携協定(TPP)、ユネスコ、パリ協定からの離脱など今年も目が離せない状況が続きます。そして北朝鮮は国際社会の警告を無視して核実験や弾道ミサイルの開発を継続し、朝鮮半島情勢をより緊張させています。そして韓国では、朴大統領が罷免され、新たに文大統領が誕生し、その融和路線はアメリカ、日本との関係で不協和音が懸念されています。更にヨーロッパでは38歳で大統領に就任したフランスは、イギリスの難民受け入れやEU離脱に抗する国としてとどまりドイツとともにEUを牽引しています。かたや権力を固持しようとしている国も多く、特にシリアは“IS”との戦いと内戦は終わりが見えません。そしてロシアと中国のリーダーは権力を強固にしようとし独裁化に拍車をかけています。

このように世界は、自分あるいは自国を守ることが精一杯で、他国のこと地球全体のことは考えられない状況となっています。

国内に目を向けると、森友学園問題・加計学園問題は未だ解決せず、都議会議員選挙での自民党の歴史的な大敗と衆院の解散、そして10月の衆院選の自民党の

圧勝とこの間「希望の党」の結成や民進党の分裂といった政治の混乱は、政治不信を募らせました。また角界の暴力事件など悲しい事件も多くあった年でした。その一方で将棋界で14歳の藤井聡太四段がデビュー以来公式戦29連勝の新記録を樹立、桐生祥秀選手が100mで日本人初の9秒台を記録など、若者の活躍が各方面でみられました。若い力が躍動することは夢と希望と力を与えてくれました。

さて大学の一年で大きなこととして医師国家試験の成績の低迷が挙げられます。6年生の国家試験対策の見直しはなされ、外科学の篠塚望教授が中心となり“やれることは全てやる”と学年全体、成績下位者、学生一人一人に対して丁寧な指導が行なわれました。今年の国家試験の合格率は期待が持てるものと思います。大学では国際認証を受ける準備が進められています。より良い臨床医の育成のためのより良い教育が検討され実行に移されようとしています。また、埼玉医科大学創立50周年記念事業の一つとなる実習棟の建設準備が進められています。折角の建物であり、教育者側の権利・主張とは関係なく学生にとっても使い易く永く使用できる建物になるものと楽しみにしています。

また昨年秋には故丸木清浩名誉理事長の一周忌が厳かに執り行われ、いまだに涙を誘う場面もあり、ただただ時の移り変わりの早さを実感しました。現在の丸木清之理事長となり1年が経過しましたが、生来の強い統率力と名誉理事長の教訓を生かして順調に創立50周年に向けた事業計画が進行しています。

この大学の一連の計画に対して、より良い教育機関・病院・研究機関となるように、そしてわれわれ卒業生のより心の拠り所となりさらには一層誇れるような大学になるよう同窓会も一丸になって協力していく所存です。

会員の皆様には、引き続き会員相互の親睦をはかることと大学の発展に貢献することを進めていきたいと考えていますので、ご支援ご鞭撻をよろしくお願いいたします。また、来年には10年ぶりとなる同窓会名簿を発行したいと考え準備に入りました。皆様の役に立つ名簿にしたいと考えていますので皆様の協力を宜しくお願いいたします。

最後に会員の皆様にとって本年が良い年となりますようご祈念申し上げます。